

(町並み版)

※ (町並み版) とは...

プロフィールを作成した27箇所の歴史的資産周辺の景観特性をよりきめ細やかに把握するため、周辺を景観特性ごとにエリア区分し、そのエリアごとに、町並みの特徴や景観形成の方針、建築計画等に求める配慮事項などをまとめたものです。

■ 1 相国寺からの眺望景観

【周辺の特徴】

- ・相国寺は同志社大学の北側に隣接し、境内を抜ける東西南北の通路は、周辺住民等の生活道路としても使われている。
- ・周囲には大学の関連施設が多くあり、烏丸通沿道にはマンション等の中高層建築物も多い。
- ・広い境内からは東に東山連峰を望むことができる。



1-1 光源院から総門への眺望
：総門の奥に御所今出川御門が見える。



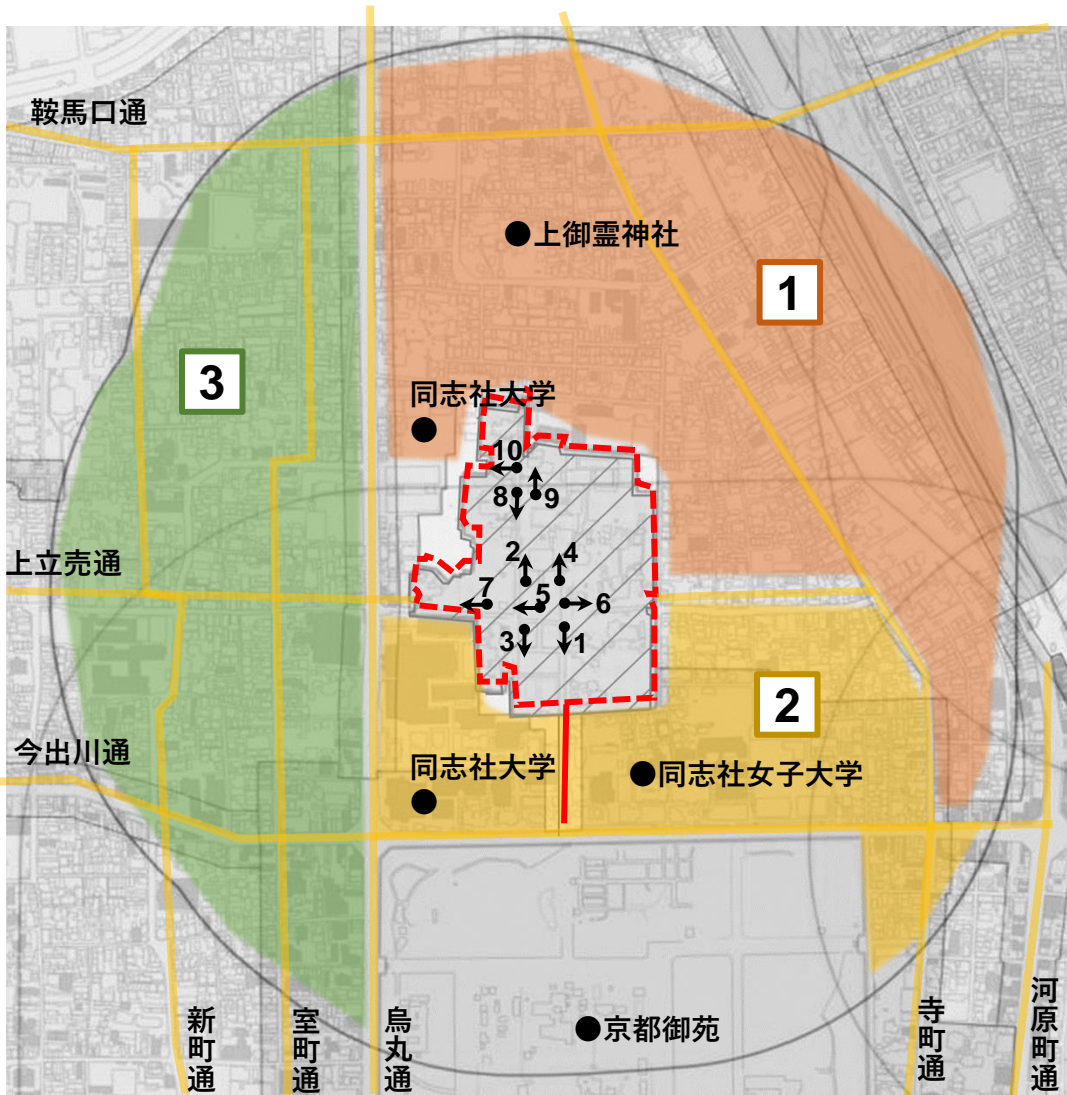
1-2 経蔵から北への眺望
：樹々の隙間から境外の建築物の上層部が見える。



1-3 経蔵から南への眺望
：同志社大学の校舎が隣接する。



1-4 庫裏前から北への眺望
：周囲の建築物は見えない。



--- 視点場（境内） — 視点場（参道等） — 主な通り



1-5 法堂前東西通から西への眺望
：松並木により周辺の建築物は見えない。



1-6 法堂前東西通から東山への眺望
：境内の緑の背景に東山が見える。



1-7 瑞春院前から西への眺望
：同志社大学の校舎が通りに隣接する。



1-8 浴室前から南への眺望
：正面に同志社大学の校舎が見える。



1-9 浴室前から北への眺望
：樹々の隙間から境外の建築物の上層部が見える。



1-10浴室北側から西への眺望
：樹々の隙間から境外の建築物の上層部が見える。

2 相国寺周辺の景観

【周辺の特徴】

- ・寺町通沿いには江戸時代に豊臣秀吉の都市政策により移転した寺院が並ぶ。
- ・烏丸通や今出川通沿いは、大学関連施設のほか、マンションや商業ビルなども多く立地している。
- ・室町通や新町通沿いには町家が多く並ぶ。



2-1 総門前から南への眺望
：左右に同志社大学の建築物が立ち並ぶ。



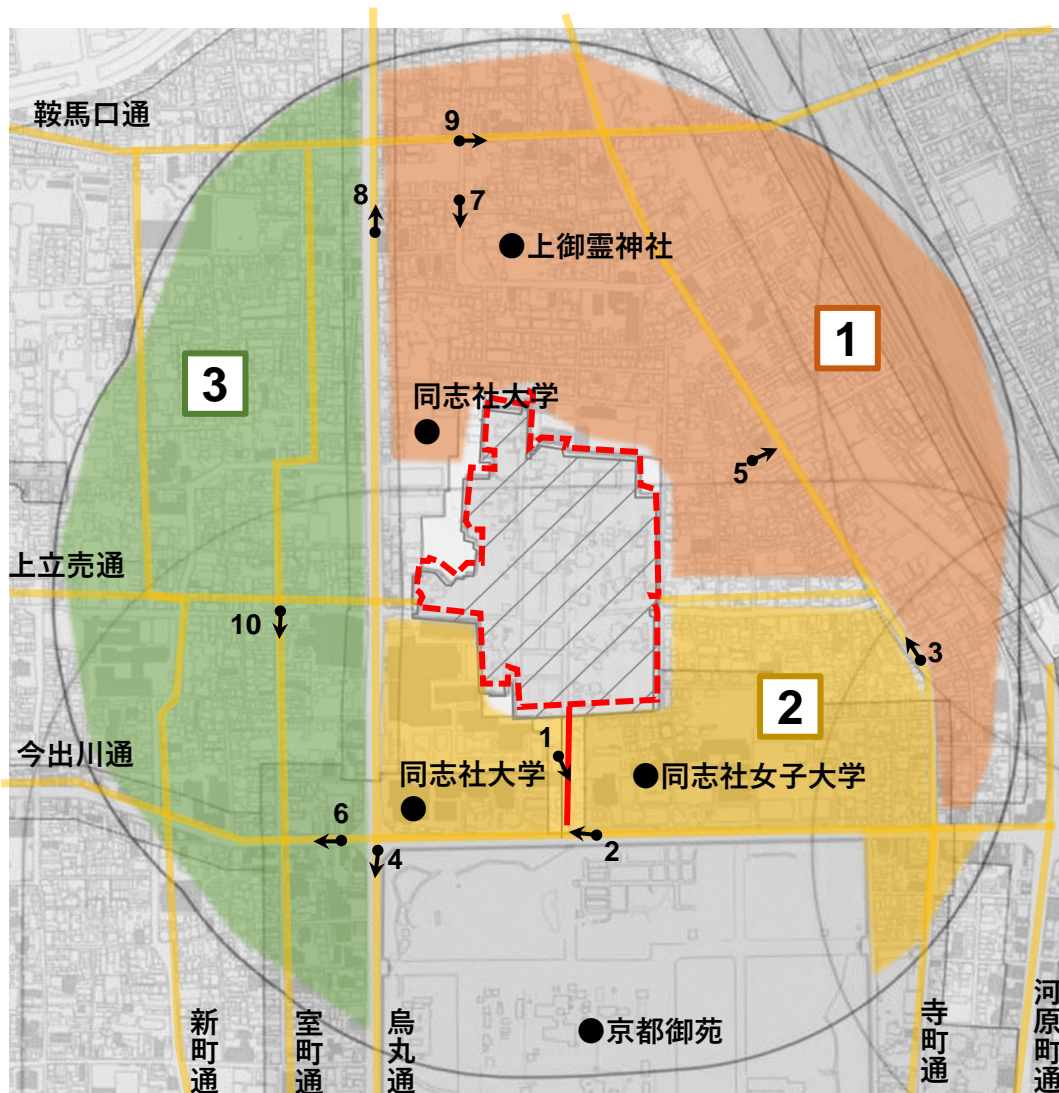
2-2 同志社大学門前
：今出川通沿いに生垣が連なる。



2-3 寺町通から北への眺望
：沿道の寺院の土塀の背景に北山が見える。



2-4 烏丸今出川から南への眺望
：中低層の商店が立ち並ぶ。



--- 視点場（境内） — 視点場（参道等） — 主な通り



2-5 阿弥陀寺前町から東山への眺望
：東西の細い通りに残った町家と東山の遠景



2-6 今出川通から西への眺望
：商業ビルが多く立ち並ぶ。



2-7 御霊神社前
：境内の樹木により緑豊かな町並みが形成されている。



2-8 烏丸通御霊前から北への眺望
：北山が遠望できる。







2-9 鞍馬口通から東への眺望
：町家が多く残っている。







2-10 室町上立売から南への眺望
：町家が多く残っている。

■ 3 相国寺周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

1 相国寺北東側		参考写真等
ア エリアの歴史等	<ul style="list-style-type: none">・天正期(1573-1593)の豊臣秀吉の京都改造政策により、洛中の寺院を移転し「寺町」を形成した。今出川通以北の寺町通も、その延長にあたり(図3-1)、現在も寺院が集積している。・寺町通の北の突当りは「鞍馬口」と呼ばれる鞍馬街道の出入口である。この辺りは鞍馬口村と呼ばれる地域で、東西道の鞍馬口通は江戸期以前から町場化されていた。	 <p>3-1 「元禄九年京都大絵図元禄9」元禄9年(1696)</p>  <p>3-2 出町舁形商店街</p>
イ 町並みの特徴	<ul style="list-style-type: none">・寺町通沿道には、特に東側を中心に多くの寺院が立ち並ぶ。周囲には、町家と新しく建て替わった住宅が混在している。・出町舁形商店街は昔ながらの個人商店が多く、にぎわっている。大正時代頃まで問屋街であった。・寺町通と相国寺の間には比較的大きな敷地の住宅が多くあり、連続する土塀や生垣、庭の緑が景観に特徴を与えている。細い通りには、町家も建ち並ぶ。・上御霊通には御霊神社がある。敷地周辺の高木が、境内を囲みまちなかに森の存在を感じさせる(御霊の杜)。明治初期には御霊神社の敷地北側は鞍馬口通り近くまであったとされる。 <p>文化財等：上善寺本堂、御霊神社(上御霊神社)</p>	 <p>3-3 御陵神社楼門から西の町並み</p>  <p>3-4 比較的大きな敷地の土塀や庭の緑の町並み</p>
ウ 景観形成方針	旧市街地型美観地区	
	同志社大学や相国寺が旧市街地景観を色濃く残し、これらの近代建築物や寺院の堂宇が景観に重厚さを与えている。また、この地域の各所から、御所や相国寺、上御陵神社などの豊かな緑を垣間見ることができる。さらに寺町通沿いには数多くの寺院が連坦しており、地域の歴史的な町並みを特徴づけている。こうした景観特性の継承を、景観形成の基本方針とする。	
力 求める建築計画等に配慮事項	勾配屋根の和風基調の外観とし、落ち着いたのある町並み景観を形成するとともに、御所や社寺の緑と調和するよう積極的に敷地内の緑化を図る。現代建築物については、周囲の歴史的建造物や京町家に調和した形態意匠とすることにより、落ち着いたのある町並み景観を保全する。	

2 相国寺南側		参考写真等
ア エリアの歴史等	<ul style="list-style-type: none">・京都御所が当地に移転した明德期(1390-1394)以降に御所周辺地域は発展が進んだ。・明治9年(1876)に同志社英学校が旧薩摩藩邸跡に移転し校舎2棟が落成している(図3-5)。また、明治11年(1878)には旧二条殿跡に前年開設された同志社分校女紅場(現：同志社女子大学)の校舎が完成している。・大正期には、ほぼ現在と同じ風景となり、昭和初期には大学前に市電の停留所も完成している。・出町と呼ばれる地域は、江戸期から醸造業者や砂糖問屋などが存在したとされ、太平洋戦争以降に商店街として発展していった。	 <p>3-5 「京都区組明細圖改正新版」明治18年(1885)</p>
イ 町並みの特徴	<ul style="list-style-type: none">・エリア内には同志社大学や同志社女子大学が大きく面積を占めている。同志社大学の敷地内5棟が重要文化財とされており、明治期の近代化を象徴している。それらのレンガ建築が相国寺と並び、京都御苑の緑とともになじんでいる。校舎建て替え時に行われた調査では公家町遺跡が発掘されている。・今出川烏丸角には、現存している公家住宅では最古である冷泉家住宅の土塀や門が今出川通の景観に特徴を与えている。・今出川河原町周辺には、町家と中高層建築物とが混在している。 <p>文化財等：同志社彰栄館、礼拝堂、有終館、ハリス理化学館、クラーク記念館、冷泉家住宅、同志社アーモスト館、啓明館西館、啓明館本館、同志社女子大学栄光館、ジェームズ館</p>	 <p>3-6 今出川相国寺参道</p>
ウ 景観形成方針	歴史遺産型美観地区	風致地区
	同志社大学など格調ある建築物と手入れの行き届いた植栽、相国寺や梨木神社などの社寺の緑が、御所の緑と呼応して良好な景観を形成している。	相国寺の境内、参道、及び御所の緑が一体をなしており、東に東山連峰を望み、相国寺近傍は境内地や学校施設で構成され、緑豊かな落ち着いた環境を形成している。
力 求める建築計画等に配慮事項	御所に面した敷地では、御所の緑と調和する生垣等植栽に特段の配慮をする。また道路に面する3階以上の壁面を1階壁面から後退させる。建築物については勾配屋根に日本瓦ぶき等和風意匠を採り入れ、風格ある景観形成を図る。	この環境の保全を図るため、相国寺境内では、境内の空間の確保や緑の保全に重点を置き、参道沿道では、緑景観の連続性の保全に重点を置く
		 <p>3-7 冷泉家の門と土塀</p>  <p>3-8 石薬師通の町家や商店が混在する町並み</p>

■ 4 相国寺周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

3 相国寺西側			参考写真等
ア エリアの歴史等	<ul style="list-style-type: none">・ 本地域は平安期から織物物産が盛んな「西陣」と呼ばれる地域の東端にあたる。応仁の乱(1467-1477)後に各地に散らばっていた織物職人が京都に戻り、西陣地区で織物作りを再開し成長していった(図3-9)。西陣地区には、格子に虫籠窓といった京町家が数多く残っている。・ 烏丸通には明治45年(1912)に丸太町通から京都駅間に市電が敷設され、大正2年(1913)今出川通まで、同12年(1923)に植物園前まで延長された。		
	<ul style="list-style-type: none">・ 烏丸通沿道は、大学関連施設が多く、商業ビルも見られるが、比較的中低層の落ち着いた町並みとなっている。・ 烏丸通以西のエリアは現在でも織物業を営む家が多く、寺之内通以南では町家も多く残る。門跡寺院も複数残り、古くからの区画が残る。 <p>文化財等：中村治男家住宅主屋、生谷家住宅主屋、大聖寺、生谷邸、中村邸、生谷邸、太田喜二郎邸、大聖寺庭園(名勝)</p>		
イ 町並みの特徴			
ウ 景観形成方針	旧市街地型美観地区	沿道型美観形成地区	
	同志社大学や相国寺が旧市街地景観を色濃く残し、これらの近代建築物や寺院の堂宇が景観に重厚さを与えている。また、この地域の各所から、御所や相国寺、上御陵神社などの豊かな緑を垣間見ることができる。さらに寺町通沿いには数多くの寺院が連坦しており、地域の歴史的な町並みを特徴づけている。こうした景観特性の継承を、景観形成の基本方針とする。	今出川通は北野天満宮が景観の核となり、鳥居や樹木等によって風情のある景観を特徴づけている。	
力 求める建築計画等に 配慮事項	勾配屋根の和風基調の外観とし、落ち着いたのある町並み景観を形成するとともに、御所や社寺の緑と調和するよう積極的に敷地内の緑化を図る。現代建築物については、周囲の歴史的建造物や京町家に調和した形態意匠とすることにより、落ち着いたのある町並み景観を保全する。		
	歴史的市街地内の美観地区等に隣接する沿道は、周囲の良好な景観を分断することがないよう、沿道の町並みの連続性と調和に配慮し、良好な景観を創出する		

3-1 「元禄九年京都大絵図」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)
3-5 「京都區組明細圖改正新版」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)
3-9 「都名所図会」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)